

平成21年5月29日現在

研究種目：基盤研究（A）  
 研究期間：2006 ～ 2008  
 課題番号：18201044  
 研究課題名（和文） 東欧のコミュニティ形成と地域公論及び広域公共財  
 研究課題名（英文） Community and Regional Public Goods and Media in Eastern Europe  
 研究代表者  
 家田 修（IEDA OSAMU）  
 北海道大学・スラブ研究センター・教授  
 研究者番号：20184369

## 研究成果の概要：

本研究では環境問題をも含めて公共財としてとらえ、総合地球環境学研究所との連携により、文理協働型の議論を行った。この結果、従来の政治共同体を基にした地域設定による圏域の設定を超えて、環境に基づく圏域（環境広域公共圏）が現在問題になりつつあることが本研究の成果として明らかになった。また住民へのアンケート調査の結果として、想定していたよりも人々の社会的な流動性は高くなく、地域コミュニティの役割が以前よりも重要になっていることが新たな知見として判明した。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	9,700,000	2,910,000	12,610,000
2007年度	11,800,000	3,540,000	15,340,000
2008年度	15,100,000	4,530,000	19,630,000
年度			
年度			
総計	36,600,000	10,980,000	47,580,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：(1)コミュニティ (2)地域公論 (3)公共財 (4)東欧 (5)地域統合

## 1. 研究開始当初の背景

社会主義体制崩壊後の東欧研究は移行論が主流であり、短期的な制度改革の成否が主な論点を形成していた。このため歴史的に社会主義崩壊後の東欧社会を一貫して分析する視角がなかった。

本研究は東欧に内在して一貫した視角構築することを目指す。

## 2. 研究の目的

本研究の課題はEU加盟後の東欧地域（旧ソ連の欧州隣接地域を含む）にお

ける社会統合を見据えつつ、19世紀から今日に至るまでの広い視野に立った東欧社会論を構築するため、理論的かつ実証的な分析方法を確立することである。

## 3. 研究の方法

(1) コミュニティ、地域公論、広域公共財に関する理論的分析と東欧6カ国での現地調査を行う。

(2) 現地アンケート調査とその解析

(3) 現地研究者、欧米研究者等を招聘して

国際シンポジウムを開催し、研究成果の国際的発表を行う。

#### 4. 研究成果

公共圏を現代の公共財に限定するのではなく、歴史的視野の中で設定することにより、国民思想や教育制度の形成においても公共圏の役割がいかに重要であったかが明らかとなった。しかもこの公共圏は国家形成とは一線を画するので、国民国家の枠を超える地域研究における圏域設定にも役立つことが立証された。さらに研究の終盤では環境研究との連携により、広域公共圏としてこの方法論を定式化するなかで、文理融合的研究への可能性も浮かび上がってきた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 25 件)

- ①仙石学「中東欧諸国の家族政策-『新しい社会的リスク(NSRs)』の視点から」『西南学院大学法学論集』41巻3・4合併号(2009年3月)、171-195頁。(査読無)
- ②石田信一「クロアチアにおける選挙制度の変遷:1990-2007年」『跡見学園女子大学文学部紀要』第42号(2009年3月)、1-18頁。(査読無)
- ③渡邊昭子「ハンガリーにおける教育法(1868年)の施行と制度的安定化—国家・教会・地域住民—」『東欧史研究』31号(2009.3)、2-26頁。(査読有)
- ④佐々木隆生「複数労働経済とマクロ経済均衡」北海道大学、年報 公共政策学、第3号、2009、4-14頁(査読有)
- ⑤佐々木隆生「世界恐慌、その原因と結果—シンポジウムによせて」北海道大学、年報 公共政策学、第3号、2009、27-37頁(査読有)
- ⑥池本修一「チェコの老齢年金制度の予備的考察」、『海外社会保障研究』国立社会保障・人口問題研究所、第165号、2008年12月、54-68頁。(査読無)
- ⑦仙石学「EU-8の社会協議システム—政党政治の視点からの分析」『大原社会問題研究所雑誌』595号(2008年6月)、48-63頁。(査読無)
- ⑧中島崇文「移行期におけるルーマニアの歴史教科書」『バルカン諸国歴史教科書の比較研究』(科学研究費補助金基盤研究B研究成果報告書)、東京大学大学院総合文化研究科、2008年3月、31~46頁。(査読無)
- ⑨渡邊昭子「教育法制度成立期ハンガリーの読本に見る国家・国民と諸宗派(1870-80年代)」『歴史研究』45号(2008.3)、49-84頁(査読無)
- ⑩石田信一「クロアチア自治州に関する一考察」跡見学園女子大学文学部紀要』第41号(2008年3月、19~28頁(査読無)
- ⑪石田信一「クロアチアにおける教育制度の変遷—歴史教育を中心に」『跡見学園女子大学

人文学フォーラム』第6号(2008年3月)、60-68頁(査読無)

⑫家田修「スラブ・ユーラシア学の構築」『アジア経済』49(9):45-54頁、2008(査読有)

⑬佐々木隆生「複数労働経済とマクロ経済均衡」HOPS Discussion Paper Series No.9、北海道大学公共政策大学院、2008、1-14頁。(査読無)

⑭家田修「消滅、それとも拡大する東欧」『しやりばり』、(11)2007(<http://www.hit-charivari.com/article/data/p0054.html>)(査読無)

⑮IEDA Osamu, A szövetkezeti gazdálkodás és a vidéki társadalom átalakulásának folyamata Magyarországon. A kettős vezetésű integráció a mezőgazdasági termelésben, *Aetas*, 22, 194-214頁、2007(査読有)

⑯石井パークマン麻子・湊七雄・中澤達哉「EU諸国のボローニャ・プロセスと複合文化社会における教員養成課程改革(1)」『福井大学教育地域科学部紀要』第63号、2007年12月、1-34頁。(査読有)

⑰渡邊昭子「近代ハンガリーにおける初等教育の制度化と宗派的・言語的マイノリティ」『歴史学研究』833号(2007.10)、104-113頁(査読無)

⑱石田信一「イストリアにおける民族再生運動と読書室の展開」『史境』54号(2007年3月)、50-66頁。(査読有)

⑲池本修一, "Globalization and Japanese Investment in the Czech Republic", 日本大学経済科学研究所『紀要』第37号、2007年3月、85-104頁。(査読有)

⑳渡邊昭子「二重君主国期ハンガリー国立小学校の地域性—設立開始後の20年間における組織と運営—」『歴史研究』44号(2007.3)、63-94頁(査読無)

㉑仙石学「東欧諸国の年金制度—比較政治学の視点からの多様性の説明の試み」『西南学院大学法学論集』39巻4号(2007年2月)、143-168頁。(査読無)

㉒家田修「回顧と展望: ヨーロッパ現代一般」『史学雑誌』115(5):364-366頁(2006)(査読有)

㉓Tatsuya Nakazawa, "Slovenská politická myšlienka počas revolúcie v roku 1848 - Proces premeny slovenského národa na štátoprávny subjekt na základe tradičných korporatívny princípov", *Acta historica neosoliensia*, č.9, Univerzita Máteja Bela v Banskej Bystrici, December 2006, s.48-64.(査読有)

㉔仙石学「中東欧研究と比較政治学—いわゆるディシプリン指向の中での地域研究のあり方の考察」『スラヴ研究』第53号(2006年6月)、1-25頁。(査読有)

㉕仙石学「中東欧諸国の環境政策—欧州化(Europeanization)論の利用可能性」『西南学院大学法学論集』39巻1号(2006年6月)、64-102頁。(査読無)

[学会発表] (計 23 件)

- ① NAKAJIMA Takafumi, "Local Communities in Transylvania in the Period of Transition", International Workshop "Regional Public Sphere and Environment in Slavic Eurasia and Japan", Research Institute for Humanity and Nature (総合地球環境学研究所 2009.3.1)
- ② ISHIDA, Shinichi, "The Development of Slavic Reading Clubs and Schools in the Era of National Revival in Istria. *International workshop : Regional Public Sphere and Environment in Slavic Eurasia and Japan*, at Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto (2009.3.1)
- ③ WATANABE Akiko, Elementary School as Public Good for the Consumers: Local Residents and Cegléd Municipal 'Tanya' Schools in Dualistic Era Hungary, *International workshop : Regional Public Sphere and Environment in Slavic Eurasia and Japan*, at Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto (2009.3.1)
- ④ NAKAZAWA Tatsuya, "The Concept of "Slovak Nation" and "Corporate State": The Melding of the Concepts of *Natio*, *Populus* and *Gens* in the 18th Century Hungary", *International Workshop on Regional Public Sphere and Environment in Slavic Eurasia and Japan*. (総合地球環境学研究所、2009年3月1日)
- ⑤ IKEMOTO Shuichi, "The Pension System as Public Goods in the Czech Republic", at the International Workshop "Regional Public Sphere and Environment in Slavic Eurasia and Japan", Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) and Slavic Research Center of Hokkaido University, (2009.3.1)
- ⑥ IEDA Osamu, 'Emerging public sphere in the environmental policy in Hungary', International workshop, *Regional Public Sphere and Environment in Slavic Eurasia and Japan*, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, (2009.2.28)
- ⑦ IEDA Osamu, 'Keynote speech of the international workshop, *Regional Public Sphere and Environment in Slavic Eurasia and Japan*, RIHN, Kyoto, (2009.2.28)
- ⑧ 中島崇文「ルーマニアにおけるギリシア・カトリック教会と国民統合」、「ヨーロッパ中近世のキリスト教と民衆宗教」研究会(早稲田大学、2008年12月13日)
- ⑨ SENGOKU Manabu, "Welfare state institutions and welfare politics in Central and Eastern Europe: political background of institutional diversity, *International workshop Post-communist transformations; the countries of Central and Eastern Europe and Russia in comparative perspective* (Centennial Hall, Hokkaido University, (2008.12.5)

- ⑩ NAKAZAWA Tatsuya, "Situácia slovakov a vyučovanie slovenčiny v Japonsku", *International Symposium of East Asian researchers in Czech Studies* at the Hankuk University of Foreign Studies in Seoul, Korea, (韓国外国語大学、2008年10月9日)
- ⑪ IEDA Osamu, 'Trans-national Nation Building in Post-communist Eastern Europe: Minority Protection, Anti State Sovereignty, New European Citizenship, or Something Else'; Oxford Roundtable 'History and International Politics: Nations and Empires', Pembroke College, Oxford (2008.8.12)
- ⑫ 仙石学「中東欧の場合：何が福祉のリベラル化を促進するのか」京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)国際シンポジウム:ポスト新自由主義時代のアンデス諸国—社会変動の比較研究—(総合討論—他地域との比較、京都大学、2008年6月15日)
- ⑬ 佐々木隆生 公共政策学研究会「グローバル・エコノミーと所得分配」、(北海道大学、2008年2月22日)
- ⑭ 仙石学「EU-8の社会協議システム」(科研費「旧ソ連・東欧地域における体制転換の総合的比較研究」研究会、スラブ研究センター、2008年2月17日)
- ⑮ NAKAZAWA Tatsuya, "The Concept of "Slovak Nation" in Intellectual history: The Theory of the Corporate Body of Modern Nation", *Symposium at Association for East European Studies: Patriotism and Civil Society in the Habsburg Monarchy*. (世界史研究所、2008年2月2日)
- ⑯ 仙石学「ユーロリージョンの『限界』?—ポーランド西部国境領域を事例として」(スラブ・ユーラシア学の構築・中域圏の形成と地球化・第12回東欧中域圏研究会、スラブ研究センター、2007年3月17日)
- ⑰ 中澤達哉「選挙王政から世襲王政へ—16-17世紀の国王戴冠儀礼、国会、地方議会—」、科研研究会(代表：篠原琢)「中欧多民族帝国における地域・社団と議会主義的伝統の社会的検討」(宮城学院女子大学、2007年2月17日)
- ⑱ 中澤達哉「近世ハンガリー王国の国王戴冠儀礼」、第49回早稲田大学西洋史研究会大会(テーマ:『中近世ヨーロッパ都市の政治と文化—権力、コミュニケーション、プロパガンダ』)(早稲田大学、2006年12月16日)
- ⑲ IEDA Osamu, Post-Communist Politics and Economics Workshop, Davis Centre, Harvard University, Cambridge (2006.1.20)
- ⑳ IEDA Osamu, Changing Regions in Post-communist Slavic Eurasian Studies: Meso-mega Area Dynamics, Kenan Institute, Woodrow Wilson International Centre, Washington DC. (2006.11.15)
- ㉑ 中澤達哉「スロヴァキア国民概念とヨーロッパの議会主義的伝統」、EU Institute in Japan 共同研究「EU and Culture」定例研

研究会（東京外国語大学本郷サテライト、2006年7月30日）

②仙石学「東欧諸国の年金改革-比較政治学の視点から」(スラブ研究センターおよび京都大学地域研究統合情報センターの連携研究プロジェクト合同研究会、2006年7月8日)

③ IEDA Osamu, *Changing Regions in Post-communist Slavic Eurasian Studies: Meso-mega Area Dynamics*, Institute of Slavic Studies, RAS, Moscow (2006.6.6)

〔図書〕(計15件)

①中島崇文「対オスマン蜂起の時のルーマニア人民の要求、1821年1月17日付」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ』岩波書店、2009年、133~135頁。

②仙石学「体制転換期中の東欧における政治腐敗-ポーランドとスロヴァキアの事例から」河田潤一編『汚職・腐敗・クライエントリズムの政治学(MINERVA人文・社会科学叢書134)』ミネルヴァ書房(2008年7月)、300-325頁。

③池本修一「チェコにおける企業改革と対外直接投資」池本・岩崎・杉浦編著『グローバル化と体制移行の経済学』文眞堂、2008年4月、pp145-164。

④ Tatsuya Nakazawa, “Situácia slovakistov a vyučovanie slovenčiny v Japonsku”, *Studia českého a slovenského jazyka ve východní Asii* (Medzi národnými konferenciami v príležitosti 20. výročia založenia katedry českých a slovenských štúdií na Korejskej univerzite zahraničných štúdií), Seoul, Korea, 2008, s.165-174。

⑤家田修「スラブ・ユーラシア学とは何か」家田編『講座スラブ・ユーラシア学 1. 開かれた地域研究へ：中域圏と地球化』講談社、2008、11-23p。

⑥家田修「中域圏：地球化時代の新しい地域研究」家田編『講座スラブ・ユーラシア学 1. 開かれた地域研究へ：中域圏と地球化』講談社、2008、27-63

⑦仙石学「ユーロリージョンの『限界』-EU加盟前後のポーランド西部国境領域を事例として」宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『地域のヨーロッパ-多層化・再編・再生』人文書院(2007年11月)、248-272頁。

⑧中島崇文「古代ローマの末裔となったダキア人—ルーマニア人のルーツを求めて—」など、六鹿茂夫編著『ルーマニアを知るための60章』<エリア・スタディーズ66>明石書店、2007年10月10日発行、204~215、220~242、302~306、358~361頁。

⑨ IKEMOTO Shuichi, “Corporate Restructuring, Foreign Direct Investment, and Japanese Multinationals in Czech Republic”, in Bruno Dallago & Ichiro Iwasaki (edit.), *Corporate Restructuring and Governance in Transition Economies*, Palgrave Macmillan, 2007年4月、pp.107-134,

⑩ Tatsuya Nakazawa, “Slovak Nation as a Corporate Body – The Process of the Conceptual Transformation of a Nation without History” into a Constitutional Subject, *Slavic Eurasian Studies*, No.15, Slavic Research Center, University of Hokkaido, March 2007, pp.155-182.

⑪ IEDA Osamu, Ideological Background of the Amendment Status Law Controversy in Hungary in IEDA Osamu, ed., *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 9, Beyond Sovereignty: From Status Law to Transnational Citizenship?*, 185-213, SRC, Sapporo, 2006.

⑫ IEDA Osamu, East European Regional Identity: Vanishing Away and Recreated in IEDA Osamu & UYAMA Tomohiko, eds., *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 10, Reconstruction and Interaction of Slavic Eurasia and Its Neighboring Worlds*, 61-73, SRC, Sapporo, 2006.

⑬ YELITOVA Marketa, IKEMOTO Shuichi, “Outlook of the Old-age Pension System in the Czech Republic”, in KUBONIWA Masaaki, NISHIMURA Yoshiaki (edit.), *Economic of International Equity in Transition Economics*, Maruzen, 2006, pp.85-104.

⑭ M.ピリトヴァ、池本修一、「チェコの老齢年金制度」西村可明編著『移行経済国の年金改革』ミネルヴァ書房、2006年、69—88頁。

⑮中島崇文「歴史教科書に描かれたルーマニア人のカトリック教会との合同」『創文』No.490、創文社2006年9月1日発行、19~22頁。

〔その他〕

①仙石学「ポーランド選挙・政党データ」『ポスト社会主義国・政党ハンドブック1』京都大学地域研究統合情報センター(2009年3月)  
②仙石学「ポーランド」荻原康生他編『世界の社会福祉年鑑 2007年版』旬報社(2007年11月)、163-181頁。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

家田 修 (IEDA OSAMU)  
北海道大学・スラブ研究センター・教授  
研究者番号：20184369

### (2) 研究分担者

佐々木隆生 (SASAKI TAKAO)  
北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授  
研究者番号：70091692

仙石学 (SENGOKU MANABU)

西南学院大学・法学部・教授

研究者番号：30289508

池本修一(IKEMOTO SHUICHI)

日本大学・経済学部・教授

研究者番号：50287570

渡邊昭子(WATANABE AKIKO)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20293144

中島崇文(NAKAJIMA TAKAFUMI)

学習院女子大学・国際文化交流学部・

教授

研究者番号：90386798

中澤達哉(NAKAZAWA TATSUYA)

福井大学・教育地域科学部・准教授

研究者番号：60350378

石田信一(ISHIDA SHINICHI)

跡見学園女子大学・文学部・教授

研究者番号：20292284

(3)連携研究者

なし